

---

# 大好き

梨央奈

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

大好き

### 【Nコード】

N8327E

### 【作者名】

梨央奈

### 【あらすじ】

この小説は中学一年生の野村凜と同じく中学一年生の白石陸の恋のお話です。

**(前書き)**

エッチな場面がありますが上手に書けていないと思います。ご了承ください。

私の名前は、野村凜。中学1年生

「凜帰ろうぜ」

「陸ちよつと待ってよ」

この人は、お隣さんで同じ年の幼なじみで彼氏の白石陸。自分で言うのもなんだけど、仲良しで、とってもラブラブなの。

「早く」

「待ってったら」

（数分後）

「遅せーよ」

「ごめんごめん」

「早く後ろ乗れよ」

「ホントごめんね」

「もう良いよ」

「ホント？」

「ああ」

「ありがとう」

「陸？」

「何」

「大好き」

「何言っただよ」「あーっ照れてる」

「別に照れてねえし」

「照れてるくせに」

「うるせえ」

クスクス

「何笑っただよ」

「だって陸可愛いんだもん」

「うるせえほら着いたぞ」

「ありがと陸」  
「今日も部屋来る？」  
「うん行く」  
「じゃあまた後でな」  
「うんバイバイ」  
「凜？」  
「何？」  
「キスしたい」  
「良いよ」  
「チユツ」  
軽いキスをした。  
「じゃあまた後でね」  
「ああ」  
「バイバイ」  
くその日の夜く  
ピンポン  
「はい」  
「陸」  
「上がって」  
「今日おばさんは？」  
「夜勤。俺たちが学校に行ってから帰ってくる」  
「そっか」  
「心配だった？」  
「何の？」  
「エッチ中に入ってこないか」  
「バカ。陸のエッチ」  
「でも俺たち今からエッチな事するんだぜ」  
「あんまりエッチはっかかり言っていると今日はエッチ無しにするから」  
「えっしよっよ凜」  
「どうしよっかな」

「もう言わないから」  
「何を？」  
「エッチばかり言わない」  
「約束する？」  
「ああ」  
「絶対？」  
「絶対」  
「もお。しょうがないなあ」  
「しても良い？」  
「良いよ」  
「凜好きだ」  
「私も」  
「凜キスして良い？」  
「良いよ」  
クチュツ  
「んっ…陸う…」  
チュツ  
「凜愛してる」  
「んっ…私も」  
「ハアハア」  
「陸キス長いよ」  
「ごめん」  
「まあ良いよ」  
「凜俺もう我慢できない」  
「私も」  
ヒヨイ  
お姫様抱っこでベッドに移動。  
「脱がせて」  
「はいはい。凜ってエッチの時は甘えてくるよな」  
「だって陸しかないもん」

「可愛いこと言うからもう我慢できない」  
プチッ

服を脱がす（陸が凜の）  
下着姿を見て

「恥ずかしいからあんまり見ないで」

「こんなに綺麗なのに？」

「うん」

「その内気にしてる余裕無くなるよ」  
下着を脱いで

「凜って胸でかいよな」

「最近陸が触りまくるからじゃないの」

「そっか。じゃあもつと触ってでかくしよつな」

「もおエツチ」

チュパチュパ

「あんっ……んっ」

「陸って……いつつも……んっ……胸からせめるよね」

「凜は胸が感じやすいし。せめておいたら凜の下の口から密が溢れるから」

「もお……んっ」

クリクリ

「ひゃっ……あんっ……んっ」

「そろそろ下に移ろつかな。凜の下の口密出しすぎ溢れ出るよ」

「やあっ……言わないでえっ……」

「しょうがないなあ。舐めとってやるよ」  
ペロッ

「ハアン……あっ……やあっ……陸っ……」

「凜の密舐めても舐めても溢れて来るよ」

「やあっ……言わないで……ったら……あんっ」  
ペロッ

「あんっ……そこだめ……やあっ……陸っ」

「凜はクリトリス舐めると感じすぎるんだよな。次はクリトリスいじってやるよ」

クリッ

「あぁっ…………だめえ…………やぁっ…………感じすぎて…………変になっちゃう…………」

「俺もう我慢できない。」

「はぁっ…………良い…よ」

「凜もうちょい足開いて」

「これで…………良い？」

「ああ。行くぞ」

「来て…」

ズボッ

「あぁん…陸の…おっきいよ…………あん」

「凜の中きつつい。あんま締め付けんなよ」

「締め付けたい…………わけじゃあっ…………ひゃあっ…………もういっっちゃうよお…………」

「俺もいきそう」

「一緒に…………あんっ…………いって」

「ああああん…………ハアハア…………いっちゃった」

「俺も。凜の中最高」

「ハアハア」

「凜大丈夫か？本当にコンドーム付けなくて良かったのか？」

「うん。陸の子供だったら良いの。子供が出来たら結婚…してくれ…る？」

「当たり前だろ」

「よかったぁ。」

「腕枕して」

「はいはい。さっきの訂正。凜が甘えるのはエッチの後も」

「もおっ。ねえ陸？大好き」

「俺も」



「キスして」

「はいはい」

くちゅっ

「陸う……」

ちゅぱっ

「凜愛してる」

「私も愛してる」

〈五年後〉

18歳になった私たちは結婚しました。

その数ヶ月後私たちに子供が出来ました。

双子の男女でした。

名前は男の子は律。

女の子は梨央。

これから4人で幸せに暮らしていきます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8327e/>

---

大好き

2011年1月3日18時57分発行